

2022年10月25日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【政府(財務省)および日銀の介入】&【ECB理事会】

先週末(2022年10月21日)、ドル/円は、最高値を更新して、150.00を突破し、大きく上昇した。

今のところ(=現時点での)高値は、151円台後半(151.90-95水準)を付けています。

++++
++++

この最高値水準(=151円台)から、政府(財務省)および日銀は、「ドル売り円買い」の為替介入を実施した模様。

時間帯は、東京市場を終えた海外市場での介入だったので、「委託介入」だった可能性もある。

(詳細は公表されておらず不明)

この「介入」で、ドル/円は146円台前半に大きく急落した。

先週末(2022年10月21日)のニューヨーク市場クローズは、147円台程度だった。

++++

昨日(2022年10月24日)の週明け月曜日の早朝(=東京市場のオープン前)、ドル/円は、147円台から149円台に上昇した。

このタイミング(=149円台)で、政府(財務省)および日銀は、再度、「ドル売り円買い」の為替介入を実施した模様。

この再度の「介入」で、ドル/円は大きく急落して、144円台を付けた模様。

しかし、その後のドル/円は、144円台から149円台に大きく反発(上昇)している。

++++
++++

政府(財務省)および日銀が、「ドル売り円買い」の為替介入を実施しても、大局での「ドル高円安トレンド」を変えることはできない、と考えます。

++++

今、多くの市場参加者は、
「是非、介入（＝ドル売り円買い介入）をして欲しい」
「そうすれば（介入があれば）、安値で買えるから」
と、「介入」を待っている状態、と考えます。

++++
++++

そして、今週のトピックはECB理事会。

今週の木曜日（＝明後日の2022年10月27日）に、ECB理事会が予定されている。

この今月のECB理事会では、2回連続となる0.75%の利上げが確実視されている。

ECB（欧州中銀）の利上げは、さらに続くと予想できるが、欧州経済にはリセッション（景気後退）懸念があり、そして、家計の暖房費増加と住宅ローン返済負担増加を考慮すると、「ECBがどこまで利上げできるのか」にマーケット（市場参加者）の関心は移っている。

つまり、確実視される0.75%の利上げ発表後に、マーケット（外国為替市場）が、どのような反応を示すのか、に注目する必要がある、と考えます。

換言すれば、「その次以降のECB理事会で、利上げのペースが鈍化するか、否か」にマーケット（市場参加者）の関心は移っている、ということ。

最大限に注目しています。

++++
++++

（2022年10月25日東京時間14：50記述）